

東日本大地震災害 特別発表

岩手県における大震災の 対応と今後の課題

岩手県訪問看護ステーション協議会

高橋 栄子

御支援感謝申し上げます





秋田県

青森県

宮城県

(C)Mapion

岩手県訪問看護ステーション協議会

中央ブロックA・B

11+12=24

県南ブロックA・B

12+8=20

沿岸ブロック

13ステーション

大きな被害





被害状況

事務所が使用できない

- 3/13 倒壊
- 1/13 浸水

職員関係の被害

- 職員の死亡者なし
- 職員家族の死亡・行方不明者6ステーション18名

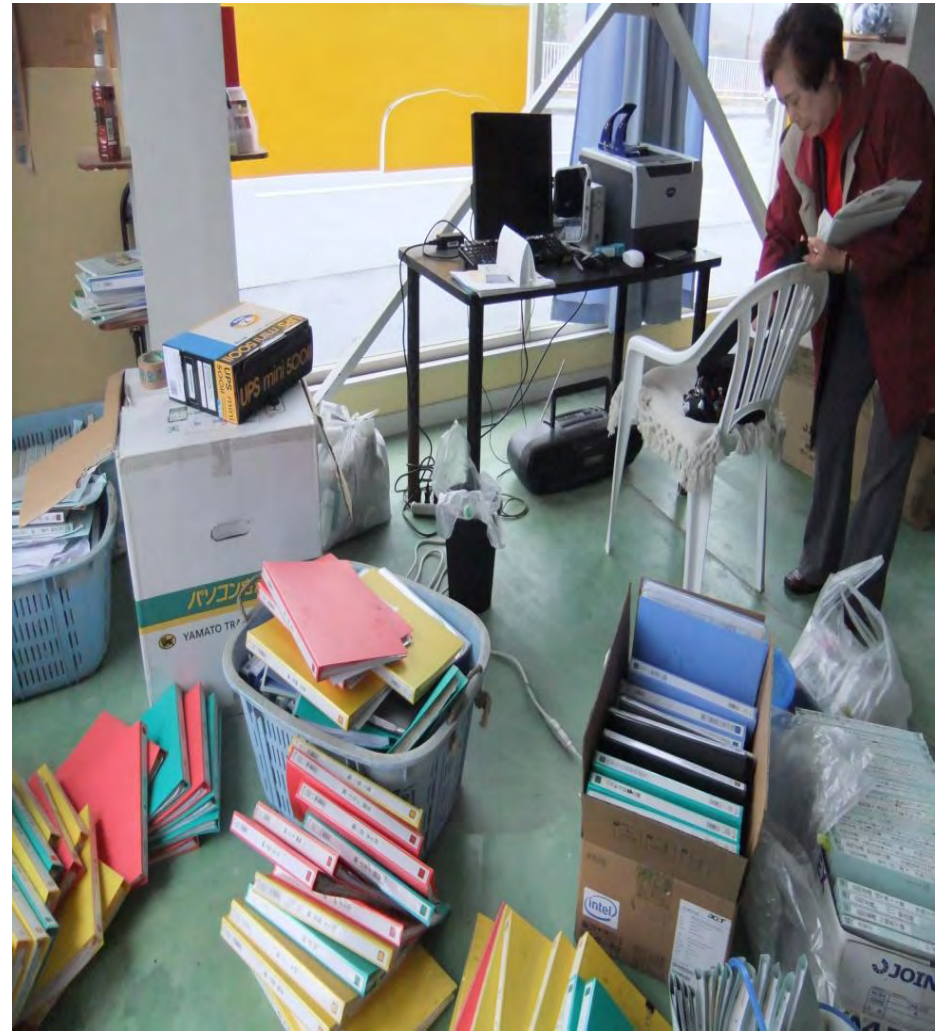
収益の被害

- 16ステーションで減収

利用者の被害状況

- 利用者減少あり:5ヶ所
- 収益の被害あり:19カ所
- 減少割合:10~57%

	死亡	行方不明	関連死	避難所	仮設住宅	転居	合計
ステーション数	10	3	8	5	3	11	38
人数	44	8	22	16	4	61	150



山田町の訪問看護ステーション

津波の被害は逃れたものの、壊れた事務所、散乱する記録物を整理している状況

震災の対応

できた事

直後

- 話を聞く
- (管理者の話を書いた)

2ヶ月後

- 連絡が取れ状況把握
- 支援物資の中継
- ボランティア呼びかけ
- 有志のボランティア

3ヶ月後

- お見舞金
- アンケート調査

できなかった事

直後

- 連絡とれず、現地に行く事さえ、何もできなかった

2ヶ月後

- ニーズの把握と支援

3ヶ月後

- ニーズの把握と支援

今後の課題

《被災ステーションへの支援》

1. 事務所の確保と安定した運営
2. 利用者確保

《利用者》

1. 避難所や仮設住宅で生活している、利用者の発掘（要支援・要介護者の早期サービス利用）
2. 避難所・仮設住宅住居者の心のケアおよび疾病予防活動

《行政および医師との連携》

1. 情報の提供および交換
2. 利用者へのサービス提供の充実

被災直後と現在



被災直後の事務所の状況



被災から3ヶ月後の現在

家族をこの震災で失ったある管理者のおもい

震災から3カ月が過ぎた岩手県訪問看護ステーション協議会の会議が終わってからの彼女からのおもい

各地の被災状況を見ながら、『どこも一緒だね・・・』

正直なところ、震災からなかなか立ち直れずにいる自分もいるのですが、頑張っているみなさんの話をうかがい、『自分も一歩ずつ前に』と思っています。次回の研修会を楽しみにしています。

被災して思う事

<災害とは、こうなるんだと身にしみて感じたこと>

i) negative reaction

- ① 電気・水道・ガス・ガソリン等の供給途絶
- ② 通信手段がない。(携帯電話不通)
- ② 食料の調達が難しい
- ③ 道路が瓦礫で通れない
- ④ 普通の靴では歩けない(汚泥・瓦礫・釘等が散乱)
- ⑤ 訪問看護を実施することが大変(往復時間に2~3時間要する)
- ⑥ 人それぞれが様々な情報で左右される(大きな問題)
- ⑦ 特に避難所等における、衛生面での管理が難しい。
(個々の生活様式が違うため、共通認識を持たせることが重要)
- ⑧ 高齢者は身体的・精神的に不慮な状況に陥る。
(例えば: 歩行困難、摂取拒否、不穩、徘徊、戦慄、心因性失語)

被災して思う事

<災害とは、こうなるんだと身にしみて感じたこと>

ii) positive reaction

- ① 普通に仕事ができる喜び。(看護師としてできること)
- ② 食の有難みがわかる。
- ③ 宗教の必要性？(慈悲的思考)
- ④ 物の支えよりも、人の支えが必要
- ⑤ 人の支えが前向きになれ、頑張れる。
人とのつながりが大きな力になる。
- ⑥ 感情失禁
- ⑦ ステーションとしてのクライシスコミュニケーションの重要性
- ⑧ スタッフへの愛情

災害時の課題

<ステーションとして>

i) 通信手段の確保

ii) 迅速な拠点場所の設置

避難場所・仮設事業所等

iii) 安否確認の方法(職員・利用者)

iv) 情報の共有

人の情報に惑わされることが無いよう、情報の発信源は一つ

v) スタッフへの支援

支えを創る: 皆さんが被災者であり、訪問看護師である

vi) 経営の確保

vii) ステーションとしての**クライシスコントロールの重要性**

viii) 緊急時の判断・行動は**二者択一の「OR論理」に徹底する。**

共存の「AND論理」も必要であるが、指示系統に戸惑いが起こる。